平成２７年１２月１５日発行

回覧

行政自治会だより

第１４号

■発行所／古河市行政自治会　事務局 TEL 0280-92-3113　■発行人／会長　五月女　光男

まくらがの古河　合併10周年記念
古河市民大運動会が開催されました

フレ～！フレ～！紅組！　がんばれ♪がんばれ♪白組！

晴天のなか選手入場♪

ゆるキャラも整列！開会式

清々しい選手宣誓！

みんなで協力して！（第４地区）

ヤッター！（第19地区）

ふんばれ！（第10地区）

ひっぱれ！（第５地区）

11月1日(日)、爽やかな青空の下、古河市民大運動会が開催されました。今回の運動会は、まくらがの古河　合併１０周年記念事業として、古河・総和・三和地区が参加する大きな大会となりました。

初めて行われる三地区合同運動会ということで、大会実行委員会の御苦労は、相当なものであったと思います。

また、会場が総和地区の中央運動公園陸上競技場であり遠方の古河・三和地区の参加準備等には、各行政区、自治会の強い協力がありました。その事が大会成功の基となったと思われます。競技進行の中では、４年後に開催される茨城国体古河会場開催予定の公式綱引きの予選と決勝戦が行われました。初めて見る公式綱引き競技に大きな歓声が上がっていました。

その他、体育功労賞の表彰があり多数の個人、団体等が表彰されました。その中で小中高生、子供達のうれしそうな笑顔が印象に残りました。

本大会は、事故もなくほぼ予定の時間で閉会式が行なわれ、大会を終了する事が出来ました。

（広報委員　中村和彦）

PRINTED WITH SOY INK　R100 古紙パルプ配合率100%再生紙を使用

～まくらがの古河　合併10周年記念～

第6回行政自治会親善バレーボール大会開催される

第６回古河市行政自治会親善バレーボール大会が、8月２３日（日）中央運動公園総合体育館・古河体育館・市内中学高等学校体育館で開催されました。9人制の部（男子・女子・男女混合）４人制ソフトバレーボールの部（男女混合フリー・男女シルバー）とチーム編成も工夫されており、参加しやすく考慮されています。

真剣試合あり、笑いと珍プレーあり、バレーボールを通して親睦と交流を深めておりました。

白熱のプレー

大きな怪我やトラブルもなく、有意義で楽しい一日を過ごすことが出来ました。

結果、成績は次のとおりです。

（広報委員　荻谷武士）

大会　結果

部　門	ブロック	優秀賞
9人制　男子の部	A	上大野行政区
	B	女沼行政区
	C	葛生行政区
9人制　女子の部	A	内水海行政区
	B	女沼行政区
	C	上辺見行政区
9人制　男女混合の部		仁連江口第二行政区
4人制 ソフトバレーボール フリーの部	A	駒込行政区
	B	駒羽根住宅団地行政区
	C	諸川上町・諸川中央町行政区（合同参加）
	D	諸川東松原行政区
	E	八幡町行政区
4人制 ソフトバレーボール シルバーの部	A	上大野行政区B
	B	上大野行政区A

「功労感謝の会」が各地で開催されました

第19地区
地域功労感謝の集い

9月13日（日）第19地区「地域功労感謝の集い」が三和農村改善センターで行われました。9月10日の集中豪雨で、第19地区では一部の方が被災に遭われ開催が心配されましたが、４５０余名の参加者が一日を楽しんでいました。下記の写真は、市内各地での開催の様子です。

（広報委員　荒川篤志）

下山一丁目自治会
「功労感謝の会」

高野行政区
「功労感謝の会」

地区紹介（第１２回）　～第１８地区～

第１８地区は、仁連小学校区内の仁連御辺・仁連下町・仁連上町一・仁連上町二・仁連上町三・仁連上町四・仁連上町五・仁連江口・仁連江口第二・宿・北山田・八俣新町の１２行政区1,525世帯で構成されており、市役所三和庁舎やふれあいスポーツセンターなどがあります。

地区事業としては、10月に「功労感謝の会」を開催しカラオケ等の催しを行い、参加者の親睦を深めています。

また、毎年８月には、コミュニティ組織「じゅうにひとえの会」主催による「夢追い祭り」も盛大に開催しています。

今回は、12行政区のうち５行政区をご紹介します。

～仁連御辺行政区　森田攻　区長～

仁連御辺行政区は、243世帯で構成され、古河駅東口から東方に延伸された十間通りを約９㎞進んだ地点にあります。以前は農業中心の集落でしたが、最近では農業の担い手が減少し、生活環境等大きく変化しております。

また、ここ数年行政区内への転入者が増加し、世帯数は以前の倍程度に増加しました。このような変化に対し、行政区運営がスムーズに進められるよう新旧住民の信頼関係を構築するため、スポーツやお祭りをとおして住民の交流を盛んに行い、地域コミュニティの高揚を図っています。

～仁連上町三行政区　竹村清一　区長～

仁連地区は、古くから日光裏街道ともいわれる結城街道の宿場町として、大名・旗本・旅客の往来が盛んで、問屋や旅館、料理店、米屋、酒蔵などが立ち、諸川町、谷貝町と並んで栄えていました。昔は仁礼村と称していましたが、足利氏により仁連村と改められ、その後仁連町に格上げされました。

当行政区を含む古来の仁連町の北部に位置する地域は、宿場町の一部としての歴史を紡ぎ、大字仁連北部は仁連上町と呼ばれ、近代の行政単位集落としては、昭和20年以前から、旧幸島村仁連上町部落組合として存在していました。

その後、町村合併や町制施行を経て、仁連上町三行政区と改称されました。改称当時78世帯だった世帯数は増加し、現在93世帯となっています。

～北山田行政区　岡野好春　区長～

北山田行政区は、つくば古河線と結城野田線に囲まれた交通の便の良い田園地帯です。現在の世帯数は、115世帯になります。

行政区の行事としては、秋に模擬店を出して賑やかな祭礼が行われ、春には、行政区一丸となって東日本大震災を始めとしたチャリティーを目的に、花見会を催しています。これには地区の青年部が大きな役割を担っていて、将来の行政区の活性化に必要な役割・希望・融和に大きく貢献しており、大きな望みの持てる組織です。

また、シニアクラブは、時には他のクラブと合同でカラオケ等を行い、毎月多種多様な楽しい運営をしています。

～八俣新町行政区　武藤信照　区長～

八俣新町行政区は、昭和24年八俣村大字山田小字北原、総世帯数23世帯の小さな集落でした。

その後、世帯数も増え、商店街も形成されたため、これらに相応しい地名変更を行い、村名の八俣から八俣新町と改名しました。その後、商店街も更に増え、近郊には工業団地ができ、住宅が急増し現在世帯数は160世帯の行政区となっています。

～宿行政区　鈴木明　区長～

宿行政区は、82世帯の小さな行政区ですが、平成に入ってから三和地区の市民体育祭で、平成10年から行政区対抗リレーで3連覇を含め、優勝8回・準優勝1回・3位1回と輝かしい成果を収めています。

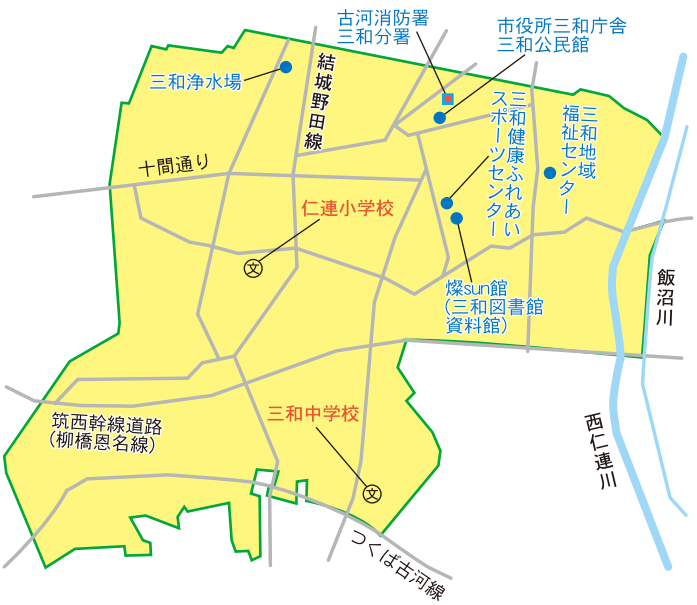
その他、郷土芸能保存会があり、全国で行われる発表会などに参加出場しています。

また、市内での「さんさん祭り」「行政区の夏祭り」「功労感謝の会」などに参加し、会場を盛り上げています。常時会員の方を募集していますので、皆様の参加をお待ちいたしています。

以上で第１８地区の紹介と致します。

（第１８地区　地区長　吉原正雄）

第18地区　区域



市内歴史散歩（第１２回）～　『古河城 鳴 動 説』を探る　～

関東地方で屈指の規模と云われた『古河城(平城)』は、明治六(1873)年の廃城令まで存在し、翌、明治七年には、城内の御三階櫓　を始め、本丸御殿や、御成門など、数々の城内建物は取り壊され、鎌倉時代の初め、将軍 源 頼 朝 に仕えて活躍した下河辺行平が、初めて古河城を築いてから約680年余り、多くの城主交代劇を見続けた古河城は、“ 幻 の城”となり、更に大正期の河川改修により渡良瀬川に埋没し、後に“水底の名城”と呼ばれます。

その雄姿は、残された下総国古河城絵図や、華道池坊師範代であった武藤松庵が西洋写真術を駆使して明治三年に写した、お城本丸御三階櫓など、古写真で見られるのみです。お城は南北(約1850m)に長く、東西は約670m位でした。

「古河城御三階櫓と二の丸御殿」
（明治三年　武藤松庵撮影）
写真提供:古河歴史博物館

※掲載写真の転用禁止

お城の一番南に“立崎 廓 ”があり、その廓に伝わる説が『古河城 鳴 動 説』です。江戸時代に書かれた「許我志」は、原念齋(名は善、念齋は号)の著書。許我志の、源三位頼政(1104-1180)によると、城主の交代やお城に何か異変がある時は、立崎廓に祀られてた源三位頼政墓が異変を知らせるために鳴動すると記されています。

この鳴動説は、著者原念齋家と古河藩との深い係わりが有ったと思う。桓武天皇創建の平安京(794年)に見る『将軍塚鳴動説』と同じ説と思います。

京都洛西栂尾の高山寺が所蔵している数多くの白描画の中に、将軍塚造営の様子を描く白描画があります。本作に詞書はないが、「平家物語」巻第五「遷都」、平家が福原への遷都を実施するにおよび、将軍塚が鳴動したというくだりで、将軍塚造営の経緯が述べられている。それによると、昔より多くの地に都が遷されてきたが、平安京の地ほどの勝地はない。よって桓武天皇は、群臣に命じて長くこの地に都がとどまるよう、土で八尺の人形を作り、鉄の鎧甲を着せ、同じく鉄の弓矢を持たせた。

そこで、末代に都を別に遷すことがあれば守護神となるよう祈念し、東山の峰に西向きに埋めた。よって「天下に有事あるときはこの塚は鳴動するのだ。」と解説されていました。この歴史的事象を承知していた原念齋は、京都在住であった祖父の儒学・医術者であった原双桂から聞き及んでいたと考えられます。双桂は、肥前唐津藩主時代の土井家に召し抱えられ藩校「盈科堂」教授として藩士教育に当たり、その後、宝暦十二(1761)年、土井家の古河藩移封に伴い双桂も古河に移りました。後に江戸に行き、わけあって古河藩を離れ幕府に迎えられ、徒組の士となります。その双桂の孫に当たる念齋が記したものが、貴重な江戸期地誌『許我志』です。古河城立崎廓鳴動説は、以上のような歴史的な経緯を経て、源三位頼政説話と結び付られ古河城の昔しえを知る説話として、現在に伝わっていると思います。

古河の歴史ロマン、ミステリーとして市民のみなさまのご記憶に長く生き続ける事でしょう。

（原自治会　田村幸平）

編集後記

関東・東北の豪雨で常総市【鬼怒川決壊】古河市【西仁連川・宮戸川決壊】が浸水で大きな被害を受けました。このため１０月４日、古河第三中学校区で開催予定の防災訓練が中止されました。

“災害は忘れた頃にやってくる”とのことわざがありますが、突然やって来る身近な災害に、日頃の準備がいかに大切かを思い知らされました。胸深くとどめ、お見舞い申し上げます。

（広報委員長　伊藤利彦）

行政自治会広報委員会

委員長
　伊藤利彦

委　員
　横山泰男　生方隆雄　鈴木國雄
　中村和彦　荻谷武士　落合芳郎
　梅津信男　荒川篤志　黒木ヒサ子